

春の女神にほほ笑みを

池野 一秀

長野松代総合病院小児科部長（長野市）

●春の喜びと春の憂い

信州では、雪に覆われていた大地が春の訪れとともに瞬く間に緑に染まり、間もなく花の季節を迎えます。太陽の光が強くなると植物だけでなく、昆虫や小動物もいっせいに活動を始めます。現代人は季節の移ろいから縁遠い生活をしているとはいえ、やはり春の影響を受けずにはられません。大多数の人は、楽しい気分です。春を迎えるのですが、スギ花粉症の人と一部の思春期の女性は、体調を崩し、春に憂うのです。今回はそんな女性たちのお話です。

●入学した学校へ行けない

その春、大好きな絵の道へ進もうと美術の専門学校へ入学した20歳の女性は、入学後間もなくから、腹痛・頭痛・立ちくらみ・回転性のめまいが出現し、体調不良のため専門学校へほとんど行けないという訴えで救急外来を受診しました。また、何かに追いかける夢、高いところから落ちる夢をよく見ると言います。

診察では、腹直筋が板状に硬く、臍上悸が著明で、弦脈でした。起立試験では起立後後に血圧はむしろ上昇し、交感神経の過剰反応と思われました。

治療は、半夏白朮天麻湯 5g を朝夕と、抑肝散加陳皮半夏 2.5g を寝る前に飲んでもらったところ、2週

後には立ちくらみと頭痛はなくなりました。しかし、手足が冷えると訴えるので、半夏白朮天麻湯を当帰四逆加呉茱萸生姜湯 5g（朝夕）に変えたところ、2週後に冷えもとれ、表情が明るくなりました。

●部活のストレスによる過緊張

次は高校2年生、17歳の女性です。身長は156cm、体重43.7kgと痩せ型です。主訴は、安静にしても嫌なことを考えるだけで胸がドキドキして苦しいという動悸と、少し動くだけでフラフラするという動揺感でした。部活は吹奏楽部でパーカッションを担当していました。部活動の一環で後輩の入学式で演奏する日の早朝に、胸が苦しくなって救急外来を受診しました。腹診では、左の胸脇苦満・腹直筋緊張があり、検査では、甲状腺機能・心電図・ホルター心電図ともに異常はありませんでした。

治療は、抑肝散加陳皮半夏 5g（朝夕）で開始しました。2週間でドキドキ感はなくなりましたが、授業中に手が冷たくなるというので、柴胡桂枝乾姜湯 5g（朝夕）と、緊張時に抑肝散加陳皮半夏を頓用として処方し、調子よく過ごせました。

その後、梅雨時には半夏白朮天麻湯、冬には当帰四逆加呉茱萸生姜湯など、季節に応じて処方を変更し、無事に高校を卒業し、大学の文学部へ進学しました。

吹奏楽部は、文化部とはいっても演奏練習だけでな

く腹筋運動を課す学校もあり、私は「体育会系文化部」と呼んでいます。特に、1人で1パートを受け持つ場合、欠席も失敗も許されず、極度の緊張を強いられるようです。こうした楽器演奏時の緊張や指の震えには、にょしんさん女神散の頓服も有効です。

● 学園祭前の止まらない頭痛

高校3年生の女性は、頭痛とめまいを訴えていました。歯痕舌と臍周囲の圧痛の所見より、水毒と瘀血と考え、ごれいさん五苓散やごしゆ呉茱萸湯を試してみたのですが効果がなく、かぜの合併も疑いせんきゆうちやうさん川芎茶調散を処方しましたが、頭痛は改善しませんでした。

さらに詳しく診察したところ、弦脈に気づき、けつ血府ぶ逐瘀湯（出典『いりんかいさく医林改錯』）の方意で、エキス剤のし四逆散と桂枝茯苓丸を各5g/日分2朝夕で処方しました。すると翌日から目に見えて頭痛が改善しました。後から詳しく話を聞くと、高校最後の学園祭の準備で、かなり無理をしていたようです。血府逐瘀湯は、気分障害・不安障害など精神科領域の瘀血証で使われる処方だといいます。強いストレスと疲労が重なったときに有用な処方です。

● 春の女神症候群の横顔（プロフィール）

このように、入学試験や新入学に伴う生活パターンの変化とストレスで、それまで目立たなかった不定愁訴がいっせいに表面化することがあります。早春から梅雨時にみられ、圧倒的に女性に多いこれらの症候を、私は「春の女神症候群」と名づけ、インフォームド・コンセントに役立てています。その特徴は以下の通りです。

- ・症状の出現時期が、早春から梅雨時。
- ・ほとんどが女性。
- ・症状出現の契機が、学校行事や受験など生活環境の変化に関係がある。
- ・漢方医学的所見として、脾胃の虚弱・水毒・肝の亢進がみられることが多い。
- ・基本処方としては、柴胡剤・利尿剤が有効。

5月は新生活の疲れやストレスが表面化しやすい月です。ある年の5月に、不定愁訴で漢方薬を処方した患者さんについて統計をとってみました。まず、男女比ですが、圧倒的に女性優位でした（**図1**）。そして、不定愁訴の初診月をみてみると、男性は1年間を通じて変化が少ないのに比べ、女性は3月から5月が明らかに増えているのがわかりました（**図2**）¹⁾。

図1 5月に不定愁訴で漢方薬を処方した患者の男女比

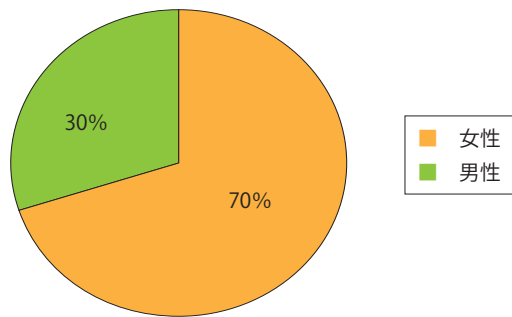
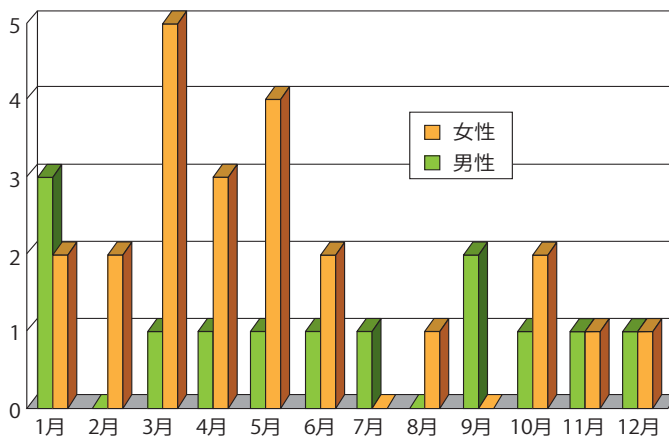


図2 初診の季節



●病気に名前があれば

今回の症例とは全く関係のない病気ですが、線維筋痛症という病気があります。原因不明の激しい痛みが長期にわたって続くという難病です。患者さんの痛みの訴えに比べ、検査など他覚的所見に乏しいため、ドクターショッピングを繰り返す代表的な疾患といわれています。この病気の患者組織を支援している長野市の整形外科医・浦野房三先生は、「患者さんにとって、自分の病状に病名がないということはかなり辛いことである」と述べています。そしてその患者の会の代表の方は、「自分に診断名が付いたときは命が救われた気がしました」と、病名を得たときの喜びを語っています。一方、新入学以来体調不良が続き、長いことさまざまな不定愁訴を訴え、ドクターショッピングを繰り返していた女子高校生に春の女神症候群の説明をしたところ、「今まで、何か重い病気があるのではないかと不安だった。春の女神症候群と言われ、『ああ、そうだったんだ』と納得したら、体が楽になった」と感想を語ってくれました。以前の病院では、「検査に異常がない」ということだけでなく、「気のせいだ」とか、「弛んでいる」「努力が足りない」「更年期障害だ」などと、およそ的外れな非難を受けていたそうです。そんな彼女たちに「春の女神」という言葉は、とりわけ安心感と陶醉感を与えるようです。ましてや「女神の薬だからね」とホストまがいの痛いセリフとともに「女神散」なんか処方された日には、どんなまづい薬でも飲んでくれることでしょう。

●春には少女がどんなに甘いか

冬の終わりに突然地上に現れ、花とともに春をまき散らし、いつの間にか消えていく春の女神の伝説があります。同じような時期に、似たような愁訴を訴え病院を受診する女性たちを「春の女神症候群」と名づけました。治療のノウハウを語る前に、そうした診断名を告げることが、最大の効果を生むと私は考えます。

厳しい受験戦争、過酷な学校生活に疲れきって、ようやく先生方の病院に辿り着いた彼女たちに、ぜひ優しい言葉をかけてあげてください。

コミック作家の萩尾望都氏の代表作『ポーの一族』に次のようなセリフがあります。「知っているよ、春には少女がどんなに甘いか。目が笑ってキスを誘うか」。私の貧弱な経験からは、これが事実か確かめる術もありませんが、新しい環境に全力で適応しようと努力している彼女たちが、漢方薬で体調を取り戻して、恋に学業にスポーツに勤しみ、明るく楽しい学校生活を送ってくれることが私の最大の願いです。

【文献】

- 1) 池野一秀. 春の女神症候群の概念について. 思春期の不定愁訴に対する漢方学的应用. 小児疾患の身近な漢方治療: 第5回日本小児漢方懇話会記録集4, 日本小児漢方交流会 企画・編集, メジカルビュー社, 2005, p.41



イラスト・池野一秀